

生活環境の安全性の評価に関する調査研究

正会員○若林 直子*¹
 同 小島 隆矢*²
 同 樋野 公宏*³
 同 布田 健*⁴

アンケート調査 安心安全 不安 防犯 防災 日常生活事故

1. はじめに

安心安全に関する住意識は、居住地域ごとに、また防災・防犯・日常生活事故などの分野ごとに細分化して検討されることが多い。本報では、総合的な内容の意識調査を全国規模で企画実施し、分野横断的な検討を行った。

2. 調査概要

調査はWeb上で回答するインターネット調査である。対象者は日本全国に居住する25～54才の調査モニター登録者で、性別、年齢層（5才階級、6属性）、居住地域（首都圏+近畿圏・その他、2属性）が各々均等になるよう抽出した。調査時期は2007年3月、有効回答は2,508、主な調査項目は、居住地域と自宅の安全性や不安度などの評価、安心安全に関わる意見や対策実行率などである。

3. 結果と考察

■「不安度」「安全-危険度」ランキング

不安度（片側4段階）および安全危険度（両側5段階）

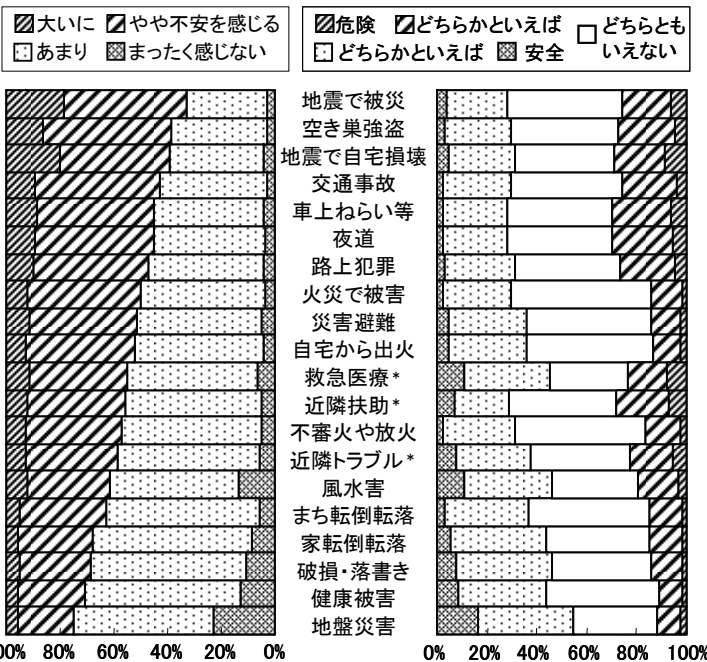


図1 不安度（左）と安全-危険度（右）

注) *印の3項目は、ワーディングの関係で「安全-危険度評価」ではなく「客観評価」とした。(例「近隣トラブル」の客観評価:「近所づきあいが良好な地域である」そう思う～そう思わない、5段階評価)

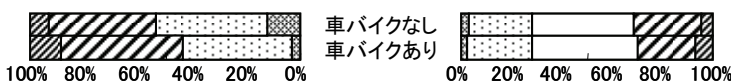


図2 「車上ねらい等」の不安度（左）と安全-危険度（右）

を20項目に分けて聞いたところ、図1の結果となった。

不安度が高い項目には、居住地域や対策の如何によらず発生可能性があるもの（地震、交通事故等）、万一発生したら深刻な事態が想定される非日常的な犯罪や事故（空き巣強盗、路上犯罪、火災）が多い。

安全-危険度も傾向は似ているが、「発生時の深刻度」より「発生頻度」の想定が影響していると考えられる点が異なる。別の設問で、被害経験の有無を聞いたが、安全-危険度は不安度よりもこの結果に近かった。たとえば、被災した経験者が非常に少ない地震や火災は不安度は高いが、安全-危険度ではそれほど危険視されていない。被害の経験者が多い「車上ねらい等」は不安度はそう高くないが、安全-危険度は20項目中もっとも危険視されている。

■「不安度」は主観、「安全-危険度」は客観評価

これは「車上ねらい等（自家用車やオートバイを狙った犯罪、自動車盗・車上ねらいなど）」の不安度と安全-危険度の差に端的に現れている。自家用車もオートバイもない人（11.7%、294人）は、ある人に比べて不安度は有意に低い、安全-危険度はまったく変わらない（図2）。持っていないので被害の不安はないとしながらも、「地域は客観的に危険」とした人が少なくない解釈できる。

■総合的な安全・安心度と不安項目との関連

住環境への総合評価として、不安度、安心度、安全度を別々に聞いたが、不安度と安心度、および不安度と安全度の間には当然ながら高い負の相関があった（図3）。但し、安心側の回答でも「不安を感じる」とした人は全体の25%（622人）、安全側でも18%（461人）と無視できない割合であり、「安心安全と感じていれば不安はない」というわけではないという結果である。

この安心度・安全度と、図1の不安20項目（0-1データに圧縮）との対応分析を各々行った（図4）。この図からは、相対的にそれほど不安度が高くなかった近隣関係、「破損・落書き」「不審火や放火」等への不安感が、居住地域の安心感・安全性の評価を下げていることが分かる。天変地異の非常時や「空き巣強盗」で想定されるプロの犯罪より、身近な人間関係や普通の人との関与が疑われる犯罪、いわば「身近な人々への日常的な不安感」が地域の評価に影響すると言い換えることができよう。この傾向は、「安全性の評価」より「安心感」の方が顕著である。

■総合的な不安・安心・安全度と個人属性との関連

- いくつかの関連が見られた。主なものを列記する。
- 性別：安心安全は同じだが、不安感は女性で大きい。
- 一人暮らし：安心していないし安全とも思っていないが、不安感はないという特徴がある。
- 子どもと同居：安心では差がないが、不安感は大きい。安全でないという意識も若干強い。
- 持ち家または一戸建て：賃貸（または集合住宅）よりも安心、安全感が強いが、不安感は変わらない。
- 地域居住年数：長いと安心、安全感が強くなるが、不安感は変わらない。

■安心安全に関する対策実行率との関連（図5）

対策実行率は、全般的に、不安度などの否定的な評価より、安心安全を含む肯定的な評価とより強く関連するという結果であった。これは既報^{1) 2)}とも一致する。とくに顕著なのは、住環境への総合的な「関心」と、防災訓練や講演会・地域安全マップづくり等の活動への参加、地域コミュニティとしての対策（防災防犯の話し合い、声をかけあい防犯に配慮等）実行率との関連である。なかには防災グッズ利用率など不安度との関連も大きい項目もあったが、それらも関心度等とも関連していた。

- 1) 若林ほか：「住民の防災意識に関する研究」日本建築学会大会梗概集 D-1 分冊，1997, 1998, 2000
- 2) 若林・小島：住民意識調査による防災意識の構造に関する研究，日本行動計量学会第 29 回大会発表論文抄録集，2001

〔注〕本研究は、建築研究所の重点的研究開発課題「住宅・住環境の日常的な安全・安心性能向上のための技術開発」の一環として実施したものであることを附記する。

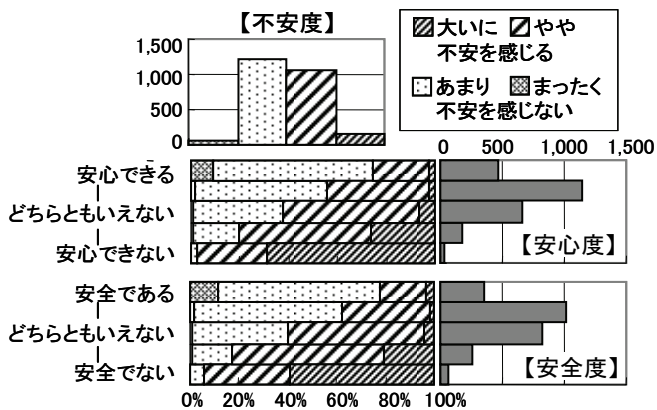


図3 総合的な不安度×安心度、安全度

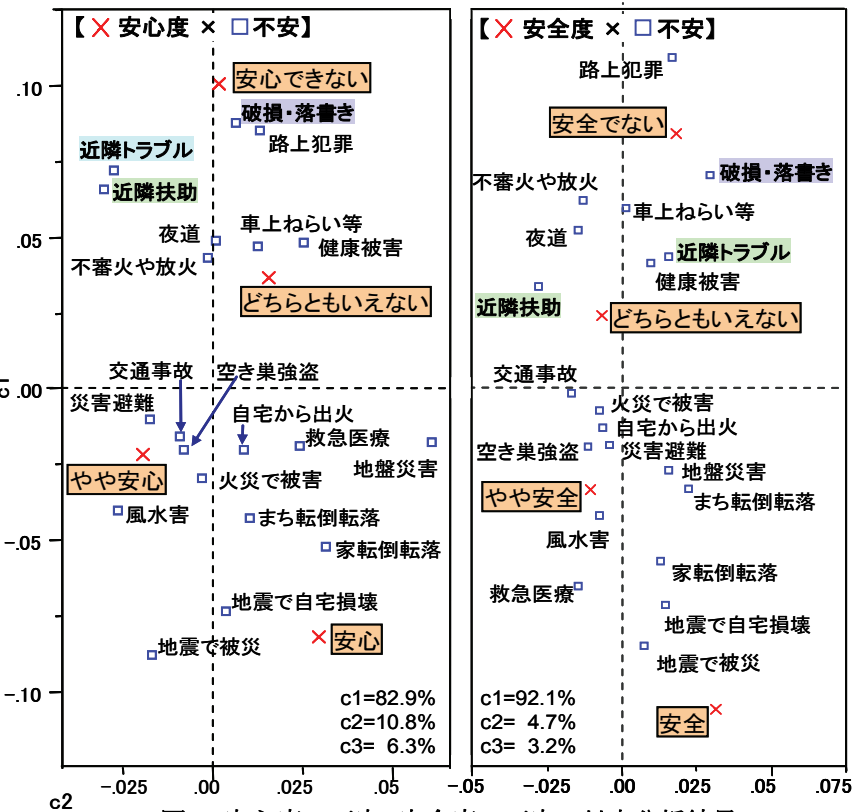


図4 安心度×不安、安全度×不安の対応分析結果

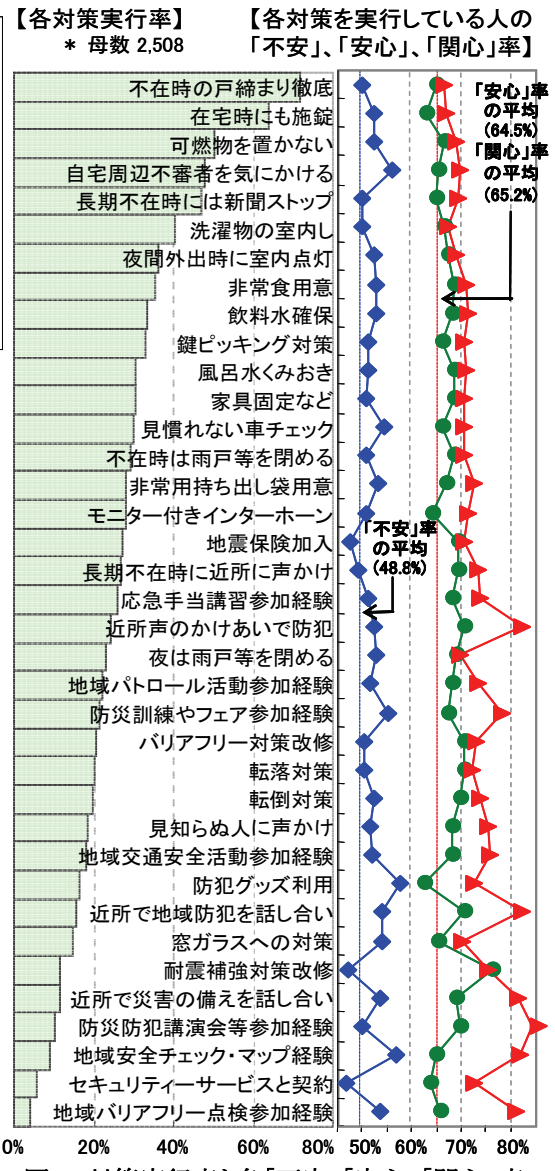


図5 対策実行率と各「不安」「安心」「関心」率

*1 有限会社 生活環境工房あくと 代表・博(工)
 *2 早稲田大学 人間科学学術院 准教授・博(工)
 *3 独立行政法人 建築研究所 住宅・都市研究グループ 研究員・博(工)
 *4 独立行政法人 建築研究所 建築生産研究グループ 主任研究員・博(工)

Representative Director, Living Environment studio act, Dr. Eng.
 Associate Professor, Faculty of Human Sciences, Waseda Univ., Dr. Eng.
 Research Engineer, Dept. of Housing & Urban Planning, Building Research Institute, Dr. Eng.
 Senior Research Engineer, Dept. of Production Engineering, Building Research Institute, Dr. Eng.